



2014年7月号

(発行)

日本共産党市会議員

上田さち子

川添町五・十八

電・三五二八三

香榎園小学校の改築！動き出す

平成29年度にも着工か…



改築が予定される香榎園小学校

芦屋市と接する西宮市立香榎園小学校は、昭和32年に開校し今年創立56年を迎えました。この間、多くの企業住宅が民間マンションに建て替わり、それに伴って児童急増が大問題となつていきます。運動場には仮設校舎が並ぶため、運動会ではトラックもひけない狭さ。校舎も老朽化が進み、全面的な改築が望まれています。

私は、高木小などの新・改築計画に続き、香榎園小学校

早ければ、平成29年度に着工

7月5日午後、香榎園市民館において地域のみなさんに市長が香榎園小学校建替えに言及しました。改めて市教委

の改築をと西宮市教育委員会へ要望、6月議会でも日本共産党の代表質問で香榎園小等老朽校舎改築を求めました。

に問い合わせたところ ①運動場・教室不足解消のため校舎の建て替えを前倒し ②平成27年度当初予算に基本設

計費を計上 ③平成29年度に着工予定とのことでした。



「敬老バス制度を西宮で」と質問する上田さち子

西宮市や尼崎市では70歳以上の高齢者に対し、「高齢者バス運賃割引証」（敬老バス）を発行し、半額の運賃で乗車できるということです。通院や買い物、市役所など公共施設へ行くときに重宝され、高齢者の外出支援を行っています。

現在、西宮市では「高齢者交通助成制度」があり、70歳以上の方に電車・バス・タクシーのプリペイドカードや

高齢化社会と言われているが、西宮市の「高齢者交通助成制度」をさらに発展させ、バス運賃が半額となる「敬老バス」との選択制ができないか・・・との思いで、いま私は議会で取り組んでいるところです。

市民のみなさんと運動を広げ、高齢者が気軽にバスを利用できるように「敬老バス制度」実現に向け、引き続きがんばりたいと思います。

西宮市でも、バス運賃半額の「敬老バス」制度を！

身体障害者手帳 または療育手帳をお持ちの方

ご存知ですか？

上記の手帳をお持ちの方が鉄道を利用する場合（単独で利用の場合は100kmを超えるとき）は駅の窓口

で。また、私鉄バス（阪急・阪神など）の場合は降車時に手帳を運転手に見せれば、運賃の半額の割引があります。

また、兵庫県タクシー協会加盟のタクシー利用の時は、手帳の提示で料金の1割が割引になりますよ。



詳しくは35-3194 障害福祉課へ

堀切市営住宅跡地も「公園整備」に決定！

長年にわたり、地域住民のみなさんによる、市都市局との粘り強い話し合いが続けられてきた「堀切市住跡地」が、ついに全面的に公園整備されることになりました。

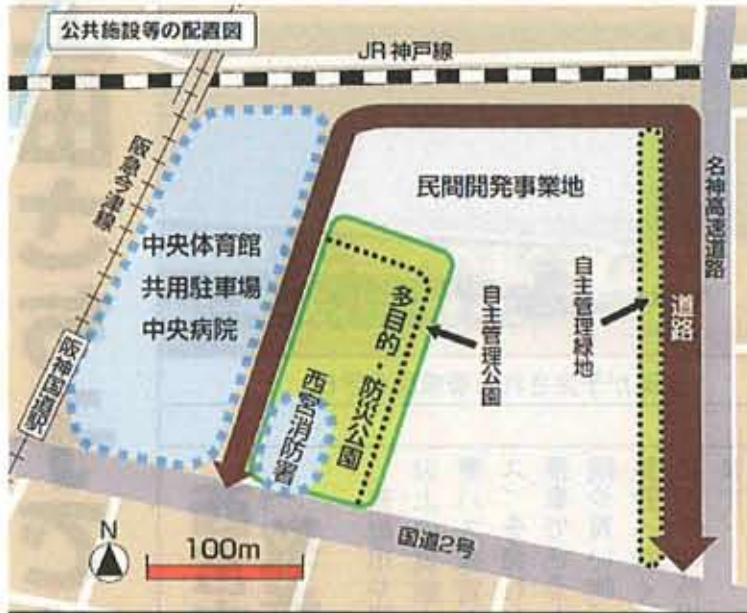
都市局の説明では、今年度に予定されている堀切川沿いの道路改良工事とあわせ、早ければ今年度内にも公園整備を行うことに・・・とのこと。

市は、市住跡地の一部をあくまでも「売却」と譲りませんでした。民有地借り上げの堀切児童公園が廃止になったこともあり、ようやく住民の皆さんの声を聞き入れ1100㎡全部を公園にすることに。万一の時の避難所にもなる公園整備、よかったですね。

アサヒビール工場跡地 (約10ヘクタール) どうなるのか??

用地購入を市長に求める決議を採択!

西宮市議会・アサヒ跡地問題特別委員会設置



10ヘクタールの用地のうち、3.8ヘクタールを西宮市が約69億円で購入し、老朽化が激しく耐震性も低い西宮市立病院や西宮消防署、中央体育館を移転新築、あわせて公園(1ha)を整備。ピンクの部分は民間開発で、環境に配慮したまちづくりを誘導、道路は民間が整備して市に無償提供する計画でした。

今村市長就任後、初の議会があり、本会議では市長の「所信表明」とともに、各会派の代表質問や一般質問が行われました。

市長の与党会派(蒼士会)以外のすべての会派が取り上げたのが「アサヒビール工場跡地」問題です。

「アサヒの土地は買わない」「計画は白紙撤回」と市長

選挙で今村市長は「計画は白紙撤回」「土地は購入しない」と公約しており、所信表明でも繰り返し述べました。

これに対し、日本共産党市議団をはじめ各会派はいっせいに反発。そもそもアサヒ跡地の購入予算約69億円は、今年3月議会に上程され、圧

「アサヒ用地購入を市長に求める決議」が圧倒的多数で可決

6月30日本会議で、今村市長が市議時代に所属していた蒼士会を除く33人が共同提案し、右記の決議を提出、賛成多数で採択されました。

日本共産党市議団を代表して私が賛成討論で ①市の中心部に位置する広大な土地を廉価(1㎡あたり18万1000円)で買い取れる ②老

倒的多数の賛成で可決されたものであり、議会の意思をないがしろにすることは許されないと市長を追及しました。

「すべてを民間開発に・・・」との今村市長に批判が繰出

アサヒ跡地は市が購入せず。すべて民間開発で・・・との市長方針に、議会では批判が集中しました。

市長は、土地を買わなくても地区計画で良好なまちづくりは可能と強弁しますが、阪神淡路大震災後の西宮市をみれば明らかです。倒壊した工場跡地や社宅跡地に、無秩序に次々と開発されたのが民間マンションでした。

せっかくマンションを買って移り住んできても、保育所は入れず、学校は満杯でプレハブ校舎・・・こんな事態を再び招くだけではないでしょうか。

一定規模の土地を市が取得してこそ、残地の開発規制を市が誘導できるのです。



朽化や耐震性の低い病院や消防署などの、市民の命を守る公共施設が整備できる ③市が一定の土地を取得することで、残地の民間開発も良好なまちづくりに誘導可能であること等を明らかにしました。

そして、土地取得の期限である7月末までに臨時議会を開催することも求めました。

48万7000市民の将来のために、確かな選択を!



選挙中市長は、アサヒ跡地計画は262億円のムダ遣いと切り捨てましたが、本当にそうでしょうか?

市長は、病院は県立病院と統合する、消防署や体育館は現地建替えと答弁しました。

しかし、病院統合の用途はなく、仮にまとまっても統合のために莫大な土地取得が必要になってくるでしょう。262億円どころでは済まなくなるのは目に見えています。

上の図の通り、私たちが支持する「計画」では必要な施設整備をアサヒ跡地に移転新築することで、現在ある施設の土地売却での収入も市政に活かせます。

将来の市民にとって市の中心部に防災拠点も整備できる現計画を推進すべきと考えますが、いかがでしょうか。